
ハッピーツリーワールド～レーザーウェーブ編～

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーツリーワールド〜レーザーウェーブ編〜

【Nコード】

N7002I

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

ロンワン編から5ヶ月の時が経た、レーザーウェーブは、リアルワールドの破壊を目論み、バグハグ大王六世は、バグハグ帝国の建国を企んでいた。そして、新たな謎が誕生しようとしていた。

プロローグ 次なる想い（前書き）

待望のレーザーウェーブ編スタート、そしてスペシャルがいきなり
かいつ。

プロローグ 次なる想い

修行をしてまる五か月が経った。

アングル「水素「なんか奇妙な軍団が来るぞしかも3千体ほど。」

カドルス「修行の成果見せたいね。」

ポーボボ「当然だ。」

スプレンデイド「なぜにいる？」

ポーボボ「だってタカトウダイのおっさんに言われたんだもん。」

サイエレンス「理数系真拳奥義同位角墮とし」

爆発した。

フリッピー「心力真拳奥義奈派療」

うちはサスケ「火遁大龍火の術」

ドルレイン「闇影真拳奥義血火雁滋」

明らかにパワーアップをしていた。

トウダイグサ・スカーレット大佐「アングル」水素、行くぞ」

アングル「水素」ああ行くか。」

「極悪吸血鬼斬血真拳奥義黙示録・天征」

一気に1200体、片が付いた。アングル「水素も酷斬真拳の使い手がパワーアップし極悪斬血真拳の使い手となった。その力は恒星も真っ二つにする。

トウダイグサ・スカーレット大佐もパワーアップしている。

「吸血鬼真拳奥義純情血危殺」

謎のメカが250体倒された。

彼の力は攻撃力60万、防御力80万、素早さ115万となった。

アングル「水素は攻撃力79万、防御力74万、素早さ93万となった。」

しかも奇遇なことにカドルスには奥の手が隠されていた。

「風遁台風螺旋丸三連撃」

ナルト「さ、三連撃だー。」

メカが全員倒された。

カドルスもパワーアップした。

攻撃力9万、防御力4万5千、素早さ16万7千となり前よりも五倍強くなった。

一方バグハグ大王六世の本拠地では

「助かった破天荒。」

「ふん、仲間を助けることは絆が定めた掟破るなんてとんでもない。」

「しかしなんでお前が「」に?」

「OVERとハレクラニは知らないと思うがSブロックに交代してとおやびんに言われてな。」

ハッピーツリーワールド

「シーモネータやめろ下ネタを言うのはターミネータの失敗作だつてことはわかるが」

「お前に分かるかこの変なアヒルパンツ被っているやつが。」

こいつ等のことを忘れてはいけない何だが邪悪な予感がしている。

謎のメカを1000体連れてやってきている。

六世「そろそろ建国の時、来るか。」

??「そうですね、六世様。」

「??」サイバトロンだけでなく他の奴らも抹殺してくれる。」

プロローグ 次なる想い（後書き）

ロンワン編完結後、言い忘れていたことがあります。東方projectは今のところ描写がないんですが、この章の終わりに近づいた時、あることが起こります。感想よろしく

第一話 エイリアン(前書き)

レーザーウェーブ編登場、パロディも出てきます。ちょっとギャグ面が強いかも今回は

第一話 エイリアン

スニフルツズ「セルラン胚戸」

「敵と定めた者がいるかどうか調べれる技のことである。」

敵が大勢来ることを知ったカドルス達は再び外へ出た。

その時フレイキーが

「きゃーあそこに変態がいるですう。フリッピーさん。」

アヒルパンツを被っている男は

「えっ、どう？」

シーモネータ「お前だよ。このパンツマニア。」

「っっておめえーだろうが。」

「俺の名はキラリーノとタカシ」

「私の名前はシーモネータX-3903型だ。」

フリッピーは覚醒していた。

「何だお前等は俺の殺戮真拳でぶっ倒す。」

キラリーノ「行け、メカミ君共あいつ等を、あの世といっついでに」

流してしまえって何を言わせるんだー。」

シーモネータ「お前が言ったんだろ。」

フリッピー覚醒「につ、殺戮真拳奥義陸空海のミサイル」

フレイキー「強い、フリッピーさん強くなっている。」

フレイキーは、覚醒フリッピーを見て一目ぼれしていた。

それもそのはずフリッピーと覚醒フリッピーは

攻撃力30万、防御力25万、素早さ37万

覚醒状態では攻撃力60万、防御力50万、素早さ92万5千となつた。

トウーシー「後はあの三人だ。」

シーモネータ「時々思うが私ってオイルの金水したくなるんでね。」

まるで銀魂のような低レベルギャグ。

こん、こん、ちーん

「どっして」

落ち込んでいるシーモネータだった。

カドルス「当たり前だー」

サイエレンス「nice ツツ」
「ミー」

第一話 エイリアン（後書き）

どうでもいいと思いますが、シーモネータは、ターミネータの失敗作ですよ。

実質ターミネータ何ですか、下ネタしかしゃべらないため、失敗作となりその名がつけられたんですよ。

第二話 頭が悪い敵（前書き）

スペシャルがこのお話で終了です。次のスペシャルは後程。感想をお願いします。

第二話 頭が悪い敵

キラリーノの攻撃力1万5200、防御力6300、素早さ2万という弱さ。

「喰らえー」

そのため覚醒フリッピの敵では無かった。

「俺の表が必死になり修行したおかげで俺も強くなった。」

シーモネータの攻撃力4800、防御力50、素早さ60と怒れ

ているぐらい弱い。

トウーシー「あいつを、撃破すれば大丈夫。土遁怒新毛」

シーモネータは爆発した。

トウーシーも格段と強くなり両腕に布地が入った。

攻撃力23万、防御力24万、素早さ22万となった。

フリッピー覚醒の攻撃が残酷にキラリーノの体を引き裂き、撃破した。

うちはドルレイン「光遁列光散々」

この技はまだ敵が隠れていないかを調べる視界系の技である。

微量の光で感知するため敵側にはばれない。

うちはドルレインは闇影としての自覚がまだ足りなかったことを怒り、修行を積み重ねた結果五影に匹敵するほどの強さまたそれ以上になった。

攻撃力90万、防御力96万、素早さ750万。

まだ敵がいる。

ニヨロモ「邪悪ニヨロモの予感がするニヨ。」

ギグルス「邪悪ニヨロモ？」

ニヨロモ「話せば長くなるけど、僕の永遠的宿敵だね。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「敵の気配は、まだ消えじか。」

銀時「そうだな。」

「バグハグ大王六世様に土産として、ニヨロモの蒸し焼きっていうのはどうだ。」

「それ、良いねって俺達もニヨロモだよ。」

闇に潜めく邪悪ニヨロモの存在、はたして、邪悪ニヨロモを倒せれるのか？

第二話 頭が悪い敵（後書き）

次回のスペシャルは、繋がれた紡ぎを貪る者スペシャルです。
劇場小説版の予告が近づいてきました。感想よろしく

第三話 光遁が導く場所（前書き）

ちよっと、シリアスです。

第三話 光遁が導く場所

「うちはドルレイン」更なる、敵を感知した五人でかかりたい。」

その結果うちはドルレインとカドルスとニヨロモとハンディとうちはタグラ達で同行した。

「うちはドルレイン」光遁が示した場所はここだな。」

その時どこからもなくナイフが飛んできた。

「ニヨロモ」あいつは……まさか」

邪悪ニヨロモの一人Kill・ギークだった。

攻撃力36万、防御力50万、素早さ6万3千だった。

ニヨロモ「水遁葬水刃」

しかし

「久しぶりだねニヨロモ君、波佐見斬」

タグラの円陣が再び活躍した。

ニヨロモの戦闘能力は攻撃力27万、防御力30万、素早さ52万だ。

ハンデイの戦闘力は攻撃力33万、防御力55万、素早さ49万だ。うちはタグラの戦闘力は攻撃力62万、防御力78万2千、素早さ66万だ。

五人とも強いがkiller・ギークには更に邪悪なニヨロモが出てきた。

バン死攻撃力35万4千、防御力32万、素早さ100万という強さ。

クリマトーギ攻撃力40万、防御力56万、素早さ5万2千という強さ。

一番やばいのが

ニヨロヴィン攻撃力120万、防御力52万、素早さ93万という

ものすごく強い相手。

5対4の戦いだが死闘の予感がし始めていた。

リアルワールド元ハレルヤランド現謎の毛狩り隊Aブロック基地

OVERとハレクラニの前に姿を現した者とは一体？

第三話 光遁が導く場所（後書き）

ブログも宜しくお願いします。Googleを使って、台風の如く現れてと検索してみてください。
次回もお楽しみに

第四話

新たな敵（前書き）

こちらの戦いも熱くなっていますのですが・・・

第四話 新たな敵

OVERとハレクラニは謎の敵と戦いをしていた。

「クツこいつ強い。」

「後真拳奥義X切り」

邪悪ニヨロモ達は

「クツなかなかやるな。」

「史上最強水遁太陽系の水柱」

ギヤ―

邪悪ニヨロモ四匹撃破

バグハグ大王六世「殺吟真拳奥義生贄力奪い」

八人の体を貫きエネルギーとチャクラを吸い取られた。

「これで、更にパワーアップできた。」

バグバグ大王六世の攻撃力90億、防御力76億、素早さ9兆8700億になっていた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は

「何か来るぞ」

メカミ君tWO型50万體だった。

スプレンドイド「マーシヨンゴーキャノン」

tWO型は攻撃力6万、防御力10万、素早さ1万2千である。

普通のメカミ君の二倍強いという。

カドルス「死闘開始だー」

第四話 新たな敵（後書き）

今回は、スペシャルです。

ここにも御指摘関係の感想も受け付けております。

第五話 死闘始まる(前書き)

リアルワールドにも出てきた危機スペシヤルです。

第五話 死闘始まる

メカミ君もW0型は次々に倒されていた。

「合戦菌我意」

フリッピーの攻撃が炸裂した。

ペチュニア「文句があるなら来なさい」

「ふざけんな」

「極悪斬血真拳奥義ハルジヨン」

「伐採牙吟賺」

「禁忌 平和玉」

「錦符 君の心は錦色になれるか？」

トウダイグサ・スカーレット大佐の攻撃もあつてかメカミ君tW O
型は全滅した。

Aブロック基地「カドルスあいつは殺れそうだな。」

バグハグ大王六世「光の闇九人衆の一人シャドーコンボイを確認。」

ブロック「さすがだなトウダイグサ。」

第五話 死闘始まる（後書き）

短すぎるといつてもスーパーショート系なので連載型にすると長編になります。

まだまだ続きます。

第六話 羽をもげた鳥（前書き）

スペシャル二話目です。

第六話 羽をもげた鳥

リアルワールドからワープゲートが現れた。

トリコネだ。

しかし

「メカミ君が襲ってきたんですー。」

リアルワールド

メカミ君がリアルワールドの建物を破壊しようとしていた。

カドルスはテープを見つけた。

ユニクロンの内部ではサタンガルバトロンがスタースクリームを探していた。

ハッピーツリーワールド

「このテープを見ればいいというわけだな。」

「そうさ、その通りさ。」

「トリコンネー」

「そんなに悲しい出来事になったのー」

ペチュニアのツツコミが入った。

トリコンネは血を吐きだして死んでしまった。

ギグルス「急いだ方がいいと思います。」

銀時「テープを見てからリアルワールドへ行くぞ。」

第六話 羽をもげた鳥（後書き）

次々と行きます。とブログも宜しくね。

第七話　メカミ君の力（前書き）

スペシャル二話目でラストです。感想よろしく

第七話　メカミ君の力

テープの中身はこんなだった。

「毛が狩られたー」

「つぎやー」

「建物が破壊されたー」

「丸、来るな」

テープが途中から切れた。

フレイキーは「これって？」

アングル「水素」OVERが言っていた毛狩りだ。」

ニヨロモ「むじすむじる」

ナルト「許さないってばよメカミ君なんか木端微塵にしてやるってばよ。」

ところ天の助「バグハグ大王六世の野郎、一体どこに居やがる。」

ユニクロン内部

ツル・ツルリーナ三世「六世様、朗報です。」

バグハグ大王六世「朗報一体何だ。」

ツル・ツルリーナ三世「Aブロック基地の外でハレクラニとOVE Rが倒れていたという情報です。」

バグハグ大王六世「あのマルガリータ四天王の二人が。」

「さすがは、我が部下あとから来るものをとことん血祭りにあげることがいい。」

「さあー動く球体の城よ。コンドルを利用し惑星を次々と制圧させ

るー。」

コンドルがいろんな方向へと移動し始めた。

ハッピーツリーワールド

カドルスとアイアイはトランプのゲームの一種ブラック・ジャックをしていた。

「って戦う気力がゼロに近すぎるー」

アイアイ「うるさいな、ギロロ。突っ込むなら、そこで宇治金時を食べている銀時さんにしろよーって、宇治金T O K I O お前何進め
ているんだー」

サイエレンスの持つ、コンパスに叩かれた宇治金t o k i o。

「これより、リアルワールドへ行くぞ」

果たして、リアルワールドの危機を救うことができるのか？

「ふっ」

第七話　メカミ君の力（後書き）

次回は、少し早い時期に次の話を出したいと思っています。

第八話 リアルワールドに危機迫る(前書き)

非常事態が遂に……
感想よろしく

第八話 リアルワールドに危機迫る

リアルワールドに来た一行は

アイアイ「って早速きやがったー」

アンゴル「水素「黙示録撃斬」」

メカミ君はあまりに動きが遅いため破壊するのに時間がかからない。

ドルレイン「火遁豪炎球」

ナツティ「甘口真拳奥義チヨコレートブロードキャンオン」

トウダイグサ・スカーレット大佐「魔槍クラウ・ソラス召喚」

ナットウダイ・スカーレット軍曹「最速獄血真拳奥義亡き力此処に在れ。」

アイアイ「ボールの力を思い知れー猿魂奥義モンキーマジック」

惑星スピーディア

「ウあー」

Xブロック基地隊長アームバレット「お、バグハグ大王六世様のコンドルだーこのときを待っていましたー。痛」

アームバレットは柱に当たってしまいました。

惑星スピーディア 制圧完了

惑星アニマトロス

ブロック基地隊長にも届いた。

「よっしや野郎共、動物狩りやー」

惑星アニマトロス 制圧完了

惑星ギガロニア

第八話 リアルワールドに危機迫る(後書き)

次回もすごい展開になりますのでお楽しみに

第九話 カドルスの新術（前書き）

展開が少しだけ面白くなってきましたよ。

第九話 カドルスの新術

メカミ君船員全滅していた。

「ほー強いね君たち」

親玉メカミ君彼は攻撃力600万、防御力580万、素早さ30万だ。

ギグルス「なんて強い威圧感。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「これは、危険すぎる。」

親玉メカミ君「ビビっているのかい、愚か者達」

ヘッポコ丸「ふざけやがって、オナラ真拳奥義臍月」

親玉メカミ君「ぬるすぎるね。全く恥を知らないのかい。」

カドルス「みんなが傷つけられる前に僕があいつを殺る。」

「風遁台風螺旋丸」

「下らん。風遁羅生拷殺」

カドルスは傷だらけになっていた。ところどころに血が出ていた。

ギグルス「無茶よカドルス。」

カドルスは「ギグルス僕は、修行の時、台風螺旋丸を二十発撃てるようになったって言うてはいた。僕の本当の強さをあいつに教えてやる。」

「無駄だな。」

「風遁火星旋風迅」

第九話 カドルスの新術（後書き）

次回も続きます。

第十話 風遁火星旋風迅（前書き）

最強クラスのパワーが、カドルスの力になって登場。

第十話 風遁火星旋風迅

傷だらけのカドルス。

「僕の本当の強さをあいつに、見せてやる。」

「風遁火星旋風迅」

ビュティ「なんて凄い風。これが火星に吹いているの」

首領パッチ「どうもそうらしいクルルから聞いたが火星の嵐は地球の嵐の十倍すごいらしい。」

「いれならいける。でも、心配。」

「喰らえー」

「風遁羅生拷殺」

「んなつ馬鹿な俺の技が破壊されただと火星の嵐恐るべし。」

ドーンっという爆発音その力は親玉メカミ君が倒されていた。

フリッピー「カドルス、強い僕よりも圧倒的に強くなっている。」

「って魂が抜けるほどの強さなのかよー。」

しかし

「うっ」

ボーボボ「フレイキーがまずいぞ。」

サイエレンス「なにっ！」

フリッピー「フレちゃん。」

フレイキー「なにこれ？」

フレイキーは不意を打たれ小型メカミ君の刃物に腹を刺された。

フレイキーの服は赤いが、刺されたところから、匂いがしているため分かる。

フリッピーは覚醒モードになっていた。

「まだ居やがったのか。」

第十話 風遁火星旋風迅（後書き）

今回の展開も面白くなっていきますので、応援よろしくと感想よろしく

第十一話 小型メカミ君の畏（前書き）

レーザーウェブ遂に、登場。

第十一話 小型メカミ君の罖

「痛いですう。」

フレイキーが腹を押えて痛がっている。

覚醒フリッピーは「あいつカンピョー君か？」

新八「違つでしょ。それよりフリッピーさんあなたの後ろにぬのハ
ンカチが。」

「殺戮真拳奥義銀禁乃鋏斬り。」

「ギヤー切れたー。」

「ところてんのみじん切りの出来上がり。」

10分後

「売れなかったー」

「だらうな」

あっさりつつ込むアングル「水素だった。

小型メカミ君「俺を倒すとレーザーウェーブ様がハッピーツリーワールドで大暴れするぜ。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「吸血鬼真拳奥義死の暴走半島」

銀時が、余計なところをツツコミ入れた。

「房総っていう字だからー」

「ぐへえー。」

「知りたくなかった新事実。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は房総半島という字を覚えた。

マジモとレベルが上がった。

「そんなことでレベルが上がった。」

ギグルスがフレイキーの傷を癒していた。

「治療奥義シエイクスマア」

「ありがとうございます。」

「よかった。さて戦いは終わったかしら、って終わってない。」

ハジケバトル開始。

サイエレンスと首領パッチ「協力ハジケ奥義おやびん同士の愛情。」

小型メカミ君は撃破。

レーザーウェーブが目覚めた。

「オラァー！口の中に砂漠の砂が入っただろうがー。」

第十一話 小型メカミ君の罖（後書き）

次回、クライマックスにつながる展開が登場。

第十二話 綺麗にお掃除しましょう(前書き)

今回から、24日を除いて、毎日更新です。次回作に向けてです。

第十二話 綺麗にお掃除しましょう

メカミ君全員を倒した。一行はあるものを見ていた。

元素集団の一人ウラングだ。

彼は何者かに拘束されていた。

それに落書きされていた。

ペチュニア「洗淨真拳奥義パスカル」

そして拘束されていたウラングは

「くそーレーザーウェーブの奴め今度来たらぶっ殺してやる。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「ウラング、そのことだが」

ハッピーツリーワールド

シャドーコンボイ「砂漠に誰がいるぞ。」

魚雷ガール「ほんとだわ。」

首領パッチ「俺が見に行つてくるぜ。ボロボボ俺がボールに変形するからあいつに投げてくれ。」

ボロボボ「分かったー」

首領パッチ「トランスフォームボール」

シャドーコンボイ「エエー首領パッチもトランスフォーマーだった

のかよ〜」

シャドーコンボイの初突っ込み。

ポーボボ「鼻毛真拳奥義ボールアタック」

レーザーウェーブ「痛いじゃねえか馬鹿野郎。」

リアルワールド

銀時「それにしてもウラングとてつもなくでかいなあ。」

「そうか、ギガロニアのトランスフォーマーだからな。」

しかしそのとき、予期せぬ者が現れた。

バグハグ大王六世が、解き放ったコンドルであった。

第十二話 綺麗にお掃除しましょう(後書き)

次回の展開も期待。感想よろしく

第十三話 帰り道の敵（前書き）

展開は、リアルワールドだけです。すみません・

第十三話 帰り道の敵

敵の数は半端ないコンドルが来た。

ウラング「バグハグ大王六世のコンドルだ。」

アングル「水素「何っ」」

コンドルの攻撃力850万、防御力300万、素早さ600万ということは全滅がありうる。

OVERとハレクラニが来た。

「クッ何とか逃げれたが。」

ハレクラニ「チッ、ここにも敵がいたかゴージャス真拳奥義デス・
ゴールデン」

コンドルが次々と百円玉になっていった。

アングル「水素」行くぞOVER。」
OVER「よしっ」は

「極悪斬血真拳W奥義カボス・ハルマゲドン」

コンドルを蹴散らした。

ウラング「すごいベコポン人にもこんな奴が。」

うちはドルレイン「光遁霸閃光撃」

コンドルが次々と消されていった。

カドルス「風遁台風螺旋丸」

「これで全部か」

タカトウダイ中佐はそう言った。

ウラング「奇妙なことだが、レーザーウェーブが命狩り隊の一人で元Fブロック隊長でもあるため、命狩り隊の中でも暴れん坊といわれている。」

トウダイグサ・スカーレット大佐は「急いで戻った方がいいな。」

しかし

「あっちの世界に行かせねえー」

デストロンの一人でアホキャラの一人、サンダークラッカーが襲い掛かって来た。

第十三話 帰り道の敵（後書き）

今回は、サンダークラッカーとの激しくない戦いが起こる。

第十四話 戦いは何処までも（前書き）

少しだけ、展開は、広がります。

第十四話 戦いは何処までも

サンダークラッカー「トランスフォーム」

ウラング「ここは俺が。」

「サタンガルバトロン様の言うとおり奴がいたかウラング死にやがれ」

「ウラングは言っとくが俺はトランスフォーマーで唯一真拳使えるんでね。」

「有田みかん喰いてー」

カドルスはここを突っ込んだ。

「だったら、喰ってこいよ。」

ウラングは、サンダークラッカーが油断しているところを狙った。

「レムリア真拳奥義伝説の玉手箱」

「ギヤー」

キラーン

ウラングはトランスフォーマーの中で一番真拳奥義を利用する。

そして

ハッピーツリーワールド

レーザーウェーブ「馬鹿かお前らそんな真拳。弱すぎるんだよ。」

「リムリア真拳奥義神のお歳暮」

爆発音とともに現れたのは・・・

第十四話 戦いは何処までも（後書き）

次回も、展開まみれな感じになります御期待ください。

第十五話 帰ってきたカドルス達（前書き）

そろそろ、スペシャルが来そうな予感がしてきましたか？

第十五話 帰ってきたカドルス達

カドルス達が戻った。

ハッピーツリーワールド

ウラング「貴様、レーザーウェーブだな。これでも喰らえ。レムリア真拳奥義ギャラクシートングの響き」

レーザーウェーブ「ザコガァ。」

互角だった。

フリッピーは「こいつまさか下に。」

レーザーウェーブ「フォースチップイグニッションセント・デストロイヤー」

ウラング「レムリア真拳奥義輪廻の情熱」

互角に戦っていた。

リアルワールド

サンダークラッカーはAブロック基地に連絡していた。

「サタンガルバトロンの命令だ。ですから早く行動準備をしませい。」

「言つとくがサタンガルバトロンの言うことなんか聞くか我々は、バグハグ大王六世様にしかにならない。」

「何だと、罪と罰と葬のちくわ野郎。」

「サンダークラッカー俺の悪口を言うならAブロック基地の掃除をせえ。」

サンダークラッカーはシヨボーンとしていた。

第十五話 帰ってきたカドルス達（後書き）

次回はスペシャルではありません。あしからず

第十六話 砂漠の秘密（前書き）

クライマックスが近づいています。

第十六話 砂漠の秘密

ウラング「レムリア真拳奥義ブラックホールの破壊」

アングル「水素」なにこれはFブロック基地の仮基地。」

銀時「ってこれ家賃65万円って書いてあるー。」

レーザーウェーブ「実はね、金が無くて君達の知らない間にこのアライグマに金奪えと言ったぜ。」

スプレンドイド「そいつら元から泥棒だし。」

レーザーウェーブ「しめたぜ。セルド・デスセイバー」

ウラング「しまった。」

タカトウダイ中佐「炎のドットム」

レーザーウェーブ「まさか、こいつも真拳使い。」

タカトウダイ中佐「俺は違う。」

アングル「水素」この仮基地を破壊しなければな。」

ユニクロン内部

サタンガルバトロン「サンダークラッカーあいつは本当にはかだな。」

バグハグ大王六世「もうすぐユニクロンがお目ざめになる頃。」

ハッピーツリーワールド

レーザーウェーブ「死ねー。」

ウラング「レムリア真拳奥義大罪の掟」

戦いは、なおも続いた。

第十六話 砂漠の秘密（後書き）

次回もすごいことが・・・ギャグ調は、どうでもいいので。はい

第十七話 基地を壊せ(前書き)

みんなが楽しみにしている続編は、この物語が最後のスペシャルを迎えた時にします。

第十七話 基地を壊せ

水銀ザクロ「ここがFブロック仮基地か。」

サスケ「ここを壊せば奴らもハッピーツリーワールドへの攻撃は避けれるというわけだなランパダ？」

ランパダ「そうなのですが、奴等は手強いですよ。この場所を壊しても問題はその後です。そこが最悪なんです。」

フリッピー「敵がない。」

「って誰か先にいたー」

アングル「水素」おいおいサイエンスよーハジケるのはいい、しかし仲間が見張っている最中にそんなことをしてたら。」

OVERとハレクラニはあることに気づいた。

「この仮基地まさか反逆者を閉じ込める第五十五刑務所。」

そこにはガルルがいた。

シャドーコンボイ「今、出してやるぞ。」

ガルル「まさかセイバートロン星のサイバートロン軍総司令官に助けられるとはな。」

「ケロン星は、バグハグ大王六世の天下になってしまった。」

カドルス「そういえば、ランピーは？」

確かに最近、行方をくらましている。

アングル「水素とOVERが再び合体技をやった。

「極悪斬血真拳W奥義力ボス・ハルマゲドン」

仮基地は破壊された。

ウラングとレーザーウェーブは傷だらけだった。

「くそこんなときに。」

ウラングは、撤退してしまった。

ライトマグナスとギロロが作戦を立てている。

何の作戦かは、まだ分からない。

第十七話 基地を壊せ(後書き)

展開も、終わりに近づいてきましたよ。最期のスペシャル名は、レ
ーザーウェーブ編無事完結スペシャルです。

第十九話 異星人達の作戦（前書き）

展開がクライマックスと言いたいけど・・・

第十九話 異星人達の作戦

作戦はこうだ。

ゲットとケロロでレーザーウェーブを挑発し追いかけてくる。

そこをタママが攻撃した後レッドバードコンボイでとどめを刺す。

といううまくいく確率75パーセントの高い水準の作戦だった。

しかし失敗は許されない。

はたしてうまくいくのか？

ユニクロン内部

サタンガルバトロン「バグハグ大王六世様、ギガロニアの制圧がもうまもなく達成されます。」

ギガロニアとは、最初は小さい惑星だったか。

プラネットXの侵略対策のために巨大化し恒星サイズの惑星へと変わり最大の大きさとなった。

地球同様一つの衛星を持っている。

その惑星の代表者はメガロコンボイで安全第一に惑星の活性化を誇りに思っている。

その惑星が今、とんでもないことに侵略されている。

バグバグ大王六世の手によって。

ハッピーツリーワールド

「こっちまでおいでー、」

レーザーウェーブが怒りだして

「待ちやがれクソどもがー」

「鬼さんこちら手のなる方へ、ひょい」

追いかけた末

「タママインパクト」

レーザーウェーブは瀕死の状態だった。

第十九話 異星人達の作戦（後書き）

次回は、一気にレーザーウェーブ編が終わります。このスペシャルはすごいぞ。

第二十話 レーザーウェーブを倒せ！（前書き）

最後のスペシャルです。一気に出るのについていきますか？

第二十話 レーザーウェーブを倒せ！

瀕死の重傷を負ったレーザーウェーブ勝利は目前のはずだが。

モニターが唐突に現れた。

そこに映っている者は、バグハグ大王六世だ。

どうやらあることをみんなに伝えるためだった。

「我がデイセプティコン・グローバル・デストロイング共達いやバグハグ帝国兵士達よく聞け、ユニクロンの内部で建国パーティーを開く。ただし幹部までは大丈夫だ。手下には見張りをしてもらうことにする。逆らう奴つまり、ランパダやレーザーウェーブのような裏切り行為はしてはならない。した場合は手下どもだけでなく隊長や幹部も同じだが、この世から消すことになるぞいな。パーティーの準備はツル・ツルリーナ三世が他の奴らと一緒に考えている。盛大なパーティーになるよう盛り上がってくれたまえ。」

レーザーウェーブの目から涙がこぼれた。

自分はランパダにバグハグ帝国の建国の日が近づいていることを知りそれを伝えようと反逆しバグハグ第五十五刑務所の中に入れられたという。

シャドーコンボイ「レーザーウェーブはじめをつけ我々の元に来るか？」

レーザーウェーブ「いやだね。」

シャドーコンボイ「ライトマグナス、リンクアップだ。」

リンクアップとは、トランスフォーマー同士の合体で新しくできる融合戦士のことである。

レッドバードコンボイになった。

そして

レーザーウェーブ「デスメトロ・シンキング・グラウンド・ヘル」

レッドバードコンボイ「朱雀雷礮弾」

レーザーウェーブは、跡かたも残さず消えてしまった。

レーザーウェーブの消滅とともに四大世界が暗黒に包まれた。

ランパダ「まずい、バグハグ大王六世の残酷テーゼ真拳が来る！」

第二十話 レーザーウェーブを倒せ！（後書き）

展開が、まさかの急展開。

第二十一話

バグバグ大王六世の謎（前書き）

お話は、一話飛んでいますが実は信じられないほど残酷すぎるため、抜き出しました。その真の十八話は、番外編として登場します。

第二十一話

バグハグ大王六世の謎

ランパダ「バグハグ大王六世が、使用する真拳は二つありそれも二つとも危険であり、ツル・ツルリーナ三世ですら攻撃不可能になるぐらいです。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「邪悪なゆえに更に邪悪なのか？」

ランパダ「そうです。彼の利用する真拳は残酷テーゼ真拳は、人を拉致したり、人を殺したりする残虐きままりない。劣血真拳は、人の体を針で貫きそして、人の命と引き換えにその力を自分の者にするという残酷な真拳。それだけでなく先祖代々受け継がれた、バグ嵐やバグ吹雪はもちろんバグカマイタチやバグタイフーンですらできてしまうという位、最悪な者です。」

ポーボボ「確か五世もバグハグ帝国を作ったと聞いたが。」

ランパダ「権力の差です。バグハグ大王六世は五世に比べると相当な権力を持っています。ツル・ツルリーナ三世さえ幹部にしかならないということですよ。」

銀時「そういえば、バグハグ大王六世の奴、幹部や隊長共はパーティーの権利があるって聞いたが。」

ランパダ「手下が5千億人、部下が6万人、幹部が92人、帝国守護者が6人で帝国大責任者がバグハグ大王六世ということになります。」

リアルワールドのモニターが急遽映った。

「残酷テーゼ真拳奥義拉致凱旋門」

そこにいたのは驚くべきことだった。

シャドーコンボイ「なっ、ベクタープライム。」

しかも周りを見るとバグリンが飛びまわっていた。

「良く見たらーking鼻毛様がいたー。」

どうやら継承の証でもあるバグ嵐が巻き起こっていた。

そしてケロロが叫んだ

「ベコポン人の三人が拉致凱旋門に吸い込まれていくであります。」
恐怖に落とし得られるぐらいとんでもない衝撃的映像だった。

フリッピーは怒りが溜まっていた。

「ひどい、リアルワールドにあんなことをするなんて。許せない。」

風間トオルの出身地であるリアルワールドは二度もバグ嵐に会っている。

ビットワールドのセイコーと通信が繋がった。

「今の見た？」

カドルス「見たよ。」

セイコー「バグハグ大王がまだいたなんてしかも知らない間にあんな力を。」

ラッセル「急いで対策とった方が得策かも。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「そうだ。みんなの力でバグ嵐を一つずつ消していくという作戦。今、我々がすべきことは我々が持つ力を最大限に扱うことが先決無駄な体力を使うよりかはこのとき

のためにパワーを溜めておくことが大事なのかもしれない。そして平和を乱した奴を殺してやるうじゃないか。」

ユニクロン内部

人質も確保した上で上機嫌になった。

バグハグ大王六世「素晴らしいことを俺がしてやったぞ。さて次は、ハッピーツリーワールドに落とすか。」

少女「ここが、ユニクロン内部？」

少年「パーティー会場みたいになっている。」

ベクタープライム「バグハグ帝国建国記念パーティー」

第二十一話

バグハグ大王六世の謎（後書き）

大変な展開が起きたということは続編があると思った方、大正解です。

第二十二話 建国バグハグ帝国（前書き）

バグハグ帝国が建国されてしまった。

第二十二話 建国バグハグ帝国

バグハグ大王六世「喜べ、我が盟友ども、このユニクロンは今まで動く城だと言ったが、これからは動く帝国府つまり政府と呼びたまえ。」

Eブロック隊長をだれにするか決めていた。

人質の中にいい人材が紛れやすいからだ。

ツル・ツルリーナ三世「このヘラジカどうもすごい力を持ってそうだが。」

ヘラジカつまりランピーのことであった。

ランピーは首元をバグハグ大王六世の手に掴まれていた。

もがいても抜けない。

バグハグ大王六世「憎め、苦しめ、怒りに身を任せる俺の儀式は貴様をこの帝国の幹部にしてやると言っている。さあーバグハグ大王六世様あなたに会えて光栄ですを言え。」

ランピー「クツ、バグハグ大王六世様あなたに会えて光栄です。」

バグハグ大王六世「どうか見たか諸君、我々の新しい幹部がたった今誕生した。命狩り隊Eブロック隊長ランピーだ。」

ランピーは、Eブロック基地の隊長になってしまった。

バグハグ大王六世「早速だが、ランピーよ、人質の体、破壊してみろ。」

ランピー「角真拳奥義スプラッタフレンドリー」

人質の体を壊そうとしたときベクタープライムの体が傷だらけになった。

「卑怯だ。バグハグ大王六世、ベコポン人に傷一つもつけさせない。」

「無駄だ。そんな体じゃ次の攻撃に耐えられるかどうかだ。ランピー」

殺れ。」

ランピー「お前らを殺す。徹底的にな。」

バグハグ大王六世はハッピーツリーワールドにバグ嵐を呼び醒ました。

「奴等は、ここまでやれば手も足も出ないだろう。」

A「ブロック隊長は自分たちの場所にいた。」

ハッピーツリーワールド

トウシー「まずいよみんな、バグ嵐が来たー。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「作戦始動。」

「首領パッチはバグ嵐に巻き込まれるー。」

「ひとでなしー。」

「よっしゃ吸血鬼真拳奥義飛びまーすと言いなから首領パッチにパイルドライバーー」

バグ嵐の一個は消えた。

第二十二話 建国バグハグ帝国（後書き）

この次の話で最終回になりました。感想よろしく

最終回 暗闇(前書き)

続編については、後書きで。

最終回 暗闇

ランパダ「タカトウダイさん、なんでトウダイグサさんは弾けたんですか？」

タカトウダイ中佐「それは長く付き合っただけでも分からない。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「バグ嵐が来るぞ」

「まずいバット持たなきゃ。」

BADという名のバッド。

「ってダメだろーガ。」

土方「喰らえ首領。パッチソードを。」

バグ嵐は消えていった。

ところ天の助「ぬぬぬぬぬぬぬぬっばぎゃー」

「バグ嵐に巻き込まれたー。」

トウダイグサ・スカーレット大佐「真面目になれって言ったってこの状態じゃどうにもナタデココー。」

バグ嵐の上に首領パッチとサイエレンスがいた。

秘儀バグブレード。

「バグ嵐を見事に操ったー。」

「あーれー。」

サイエレンス「理数系真拳面白奥義周期表ブーメラン」

ポーボボ「どこ飛ばしとんだー」

「戻ってきたー。」

ところ天の助とヒストリーは巻き沿いを喰らった。

「馬鹿野郎、危ないだろうがー。」

「ごめんと言いつつ、理数系真拳究極奥義エレメントの裁き」

「ひとでなしー。」

ランパダは呆れ顔になっていた。

ニヨロモ「謎の毛狩り隊の正体は命狩り隊だったんです。」

みんなは驚いていた。

トウダイグサ・スカーレット大佐「A」ブロック基地まであると言われているな。一体どういうことだ。」

ニヨロモ「Aブロックから壊しに行きましょう。でも気を付けないといくら最初でも敵は強いのですから。」

その時

「残酷テーゼ真拳奥義拉致凱旋門」

銀時「またか、バグハグ大王六世の技。」

ビュティと神楽と田楽マンが連れ去られた。

ポーボボ「バグハグ大王六世でめえーは必ずぶっ潰す。」

リアルワールドのゲートでポーボボは怒りを叫んだ。

一方あるところの館。

「私達を、命狩り隊の仲間に使ってください。」

バグハグ大王六世「よし、良いだろう。」

はたして、この最悪な出来事にどう立ち向かうのか？

最終回

暗闇（後書き）

次回は、ハッピーツリーワールドA～エブロック基地殲滅編がスタートします。
ではお楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7002i/>

ハッピーツリーワールド～レーザーウェブ編～

2010年10月9日23時39分発行